

# 自閉症・発達障害児者におけるハイブリッド支援

－ 対面と遠隔を活用した支援の効果と課題 －

\*当財団(講座)は「臨床心理士」資格取得者の研修機会として、(公財)日本臨床心理士資格認定協会より「短期型研修会(ワークショップ)」の承認を受けております。<承認期間:2022年7月2日~2027年7月1日 承認番号:20210392>  
なお、本講座は2ポイント(予定)となります。

期 日:2022年11月16日(水)・19日(土)のいずれかのご希望日

※ご希望日を必ず通信欄にご記入・ご入力ください

受講対象:自閉症や特別支援教育に携わる先生方、学校関係者のほか、保育・相談に関わる専門職、保護者、および興味のある方々

申込期限:2022年11月9日(水)(お申込みは先着順となりますが、期限前に募集を終了する場合がございます)

受講料:7,500円(税込み)

配信方法:『Cisco Webex』を使用し、配信 ※事前承認制です

本講座は事前にビデオ収録し、当日オンラインで配信する講座です

主 催:公益財団法人 明治安田こころの健康財団 TEL 03-3986-7021  
東京都豊島区高田3-19-10

★★★ 企画講師 ★★★ 渡部 匡隆 先生 横浜国立大学大学院教育学研究科 教授

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)(以下、コロナ)の拡大は、否応なく、これまでの支援を大きく転換させることとなりました。コロナ以前(令和2年3月まで)は、私自身、Zoomをはじめとしたオンライン支援ツールを知らず、遠隔支援について考えたこともありませんでした。ところが、大学で授業が再開されたときには、Zoom等を活用した遠隔支援、さらには遠隔と対面を組み合わせた授業があたりまえに求められるようになっていました。折しも、GIGAスクール構想のもと、一人一台PCが普及していく中で、対面と遠隔によるハイブリッドな支援は、いまや標準的な取組方となってきているように思います。

そこで、遠隔による支援、また、ハイブリッド支援は、自閉症・発達障害のある児童生徒、学生にどのように活用されてきているのか、どのような効果があり、一方でどのような困難さがあるのか、現時点で振り返ってみたいと考えています。ハイブリッド支援は、コロナ対応のために活用される場合も、日々の授業の中で活用されることも、あるいは不登校支援として活用されることもあると思います。主に、幼児から高等教育段階までを範囲にしながら、受講の皆様とさまざまな活用実態について共有するとともに、今後のハイブリッド支援のあり方について考えていくことができればと思います。

【渡部 匡隆】

## <プログラム>

※時間割・テーマ等が変更となる場合があります。予めご了承ください。

	時 間	テ ー マ	講 師 (敬称略)
各 日	10:50頃~	オンライン講座の事前案内	
	11:00~12:00	幼児期の発達支援と遠隔支援の活用	明治安田こころの健康財団 子ども療育相談センター センター長 山藤 由紀
	12:00~13:00	休 憩	
	13:00~14:00	小・中学校、特別支援学校における ハイブリッド支援	香川大学教育学部 教授 坂井 聡
	14:10~15:10	不登校児等へのハイブリッド支援	横浜国立大学大学院 教育学研究科 教授 渡部 匡隆
	15:20~16:20	発達障害学生における 遠隔授業の利点と課題	富山大学アクセシビリティ・コミュニケ- ーション支援室 主任コーディネーター 日下部 貴史